

みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 89

東北森林管理局



ニッコウキスゲが咲き誇る夏の田苗代湿原

contents

准フォレスター研修の実施に向けて

—— 特集 | 指導普及課

民国連携による低コスト林業推進の取組

—— 美しい森林づくり | 三八上北森林管理署

又一の滝とお不動さま

—— 我が署の名所 | 岩手南部森林管理署遠野支署



2011・国際森林年



みどりの東北



准フォレスター研修の
実施に向けて

指導普及課

森林・林業再生プランのポイントは、戦後造成され充実しつつある森林資源の有効活用を通じた持続可能な森林経営と国産材の安定供給体制の構築を推進するため、今後、施業の集約化、路網整備の加速化及びこれらに必要な人材の育成を行い、10年後の木材自給率50%以上を目指すものです。

このため、市町村森林整備計画の策定や森林経営計画の認定等森林計画制度の運用を現場で担う市町村を技術面から支援するため、高度な知識・技術と豊富な実務経験を有し、長期的視点に立った森林づくりを計画・指導できる技術者をフォレスターとして平成25年度以降に認定を開始することとしています。

フォレスターの育成・認定には一定の期間を要することから、フォレスターが育成されるまでの間、市町村を技術面で支援する人材が必要であるため、平成23年度から都道府県職員や国の職員等について、新たな市

町村森林整備計画や森林経営計画の作成等に関する研修(准フォレスター研修)を平成27年度まで実施し、毎年400人程度を准フォレスターとして育成することとしています。

平成23年度の准フォレスター研修は、全国7ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿中国、四国、九州)ごとに実施され、東北ブロックでは盛岡管内において、研修Ⅰ・Ⅱ(各5日間)、各2回を8月29日～11月11日までの期間に実施することとしています。研修においては受講者には、①市町村森林整備計画の基本となるゾーニ



屋内での予行演習



屋外での予行演習

ングと森林施業、②作業システムエリアを想定した森林経営計画のチェックのポイント、施業プランナーへのアドバイスのポイント、③路網整備等推進エリアを念頭に、戦略的な路網計画や販売戦略など地域林業の将来ビジョンのたて方等について、講義や演習・実習を通じて、市町村森林整備計画を実際にどのように策定・実行するかを考え、知識と技術の習得に努めてもらうこととなります。

7月19日～22日にかけて盛岡市において、8月から実施する研修の順番を控え、予め局、林野庁、外部講師、

受託業者により現地実習や演習の予行等を行うことで、研修、特に演習内容に対する関係者間の認識を共有し、研修実施における課題やポイントを事前に把握して、必要に応じ本研修の運営に資することを狙いとして予行演習を行い、演習・実習資料の確認、研修本番で各人が果たすべき役割、考慮すべき事項、ポイント等について確認、意見交換を行いました。

今、我が国の森林・林業の再生を図る大きなチャンスが到来しており、この大きなチャンスを逃さず、先人達が営々と築き上げてきた森林資源を活用して森林・林業の再生を実現できるかどうかの最大の鍵は、准フォレスター、フォレスターが握っていると言われています。フォレスターの育成は新しい取組であり、研修における反省点も含め、課題や改善点を確認するとともに、受講者の意見等も参考にしながら、研修内容や資料等について改善を図り、より実効ある研修を目指していきたいと考えています。



民国連携による 低コスト林業推進の取組

—— 三八上北森林管理署

当署では、三八上北流域における低コスト林業の普及・推進、地域の林業関係者の技術交流を目的として、地域発案システムで「低コスト林業の推進」を取り上げ、国有林のフィールドを活用し、列状間伐、高性能林業機械、低コスト路網などについて現地検討会などを開催しています。

昨年は、10月14日(木)に、三八上北流域林業活性化センターとの共催により、県内外から林業関係者約140名が参加し、上指久保国有林において開催しました。午前の現地検討会では、低コスト路網作設、ハーベスタと欧州型フォワーダのデモンストラーションを行い、メーカー担当者などとの活発な質疑応答がありました。午後は近くの公民館に移り、販売課による低コスト路網・作業システム・高性能林業機械の導入状況、青森県による低コスト間伐モデル事業などについて説明しました。

今年も、先に作成された森林作業道作設指針に基づき、低コストで壊れにくい森林作業道を作設する技術を高めるため、オペレータの実技に重

点を置いた現地検討会を10月に予定しています。

このほか、昨年からの民国連携の間伐事業として、民有林と国有林が隣接する箇所では、いっしょに間伐を行い、より大きな団地とし、土場や路網の共同利用、山元販売とすることにより、間伐コストを低減させる取組を行っています。昨年は、七戸町(上北森林組合)と東北町(東北町森林組合)の国有林でトライアルとして取り組み、民有林での団地化や事業着手の時期と合わないなど計画どおりに行かない面もありましたが、今年も他の地区で取り組む予定です。

以上、民国連携による低コスト林



新型フォワーダによる集材作業



低コスト林業について説明



低コスト作業路の説明

業推進の取組を紹介しましたが、地域の関係者による森林・林業・木材のPRイベントなども含め、今後も、森林・林業再生プランの実現に向け、国有林が少しでも地域の林業に貢献できるよう、民有林と連携して取り組んでいく考えです。



みどりの東北

「へえ〜、そうなんだ!」

高山の鳥

指導普及課長

青山一郎

Ichiro Aoyama

涼を求めて下界を離れる輩が増える夏山シーズン。森林限界よりも上で見られる鳥たちは概して地味だが、短い夏に子育てを終えるため日中でも活動的で、また、山男や山女を信頼してか里よりずっと間近で見られる。そんな彼らのご紹介。

高山の岩石地で最も賑やかなのは**ビンズイ**で、飛びながら囀る姿も声もヒバリに似ている。**カヤクグリ**は茶一色で特徴のない外見だが、ハイマツの上などでチリリリと虫のように澄んだ声で複雑なメロディーを囀る。

ホシガラスはハイマツやアオモリトドマツの毬果をバラして種子を頬袋で運び貯食する。ほっぺを脹らませた剽軽な顔は印象的。植物の移動分散にも一役買っている。

ハリオアマツバメの営巣地はブナ林なので彼も登山者。晴天

の稜線で風切り音を響かせて飛び交う様は圧巻。ツバメとはまったく別のアマツバメの仲間で、山がガスと里に来るので雨の前兆の意の名を持つ。

高山より少し下の亜高山帯の低木林の鳥は、藪に隠れて姿は見づらいが声は特徴的だ。口笛をウソと言うそうだが、名のとおり口笛のような声でなく**ウソ**は、夏は亜高山に住み、冬は里に下りる漂鳥。ベジタリアンで桜の冬芽を食べて疎まれることもあるが、雄の頬は桜色で可憐。柔らかい音質の**ルリビタキ**や「銭取り銭取り」と鳴く**メボソムシクイ**など。

登山の際には、鳥の姿や歌もお楽しみ下さい。疲れも吹き飛びますよ。



ハリオアマツバメ



ビンズイ



ルリビタキ



カヤクグリ



ウソ



ホシガラス



メボソムシクイ

フォレストボランティア等と
不法投棄防止合同パトロール・
清掃活動を実施

下北森林管理署



7月8日(金)、むつ市大畑町(奥薬研周辺)、むつ市川内町(せせらぎ公園周辺)と大間町(奥戸林道外)の3箇所において、不法投棄防止三斎パトロールを兼ねたクリーン活動をフォレストボランティア員など15名の一般市民の参加を得て行いました。

大畑町を担当したグループでは、当日はあいにく雨天のため、カッパを着用しての作業となりましたが、参加者は、森林パトロール員の帽子をかぶり、ゴミ袋、火バサミ片手に県道・広場・遊歩道等を巡回し、タバコの吸い殻、空き缶、空きビンなどを拾いゴミ収集に汗を流していました。

中には、ゴミ拾いに熱心なあまり予定のコースをオーバーされる方もいましたが、少しでも綺麗にしようとするその思いに参加者一同心を新たにしていました。

毎年、合同パトロールと清掃活動を実施していますが、このような活動を通して、一般の方にも森林環境美化への理解が深まっていくものと期待しています。



各地からの
便り



秋田駒ヶ岳の高山植物の
盗採に対する

合同取り締まりを実施

秋田森林管理署



6月13日(月)、当署が主催する秋田駒ヶ岳の高山植物の盗採に対する合同取り締まりを実施しました。秋



荷物確認をしている様子

田駒ヶ岳山頂帯には、国の天然記念物に指定されている数百種類の高山植物が見られ、多くの人々を魅了しています。この高山植物の盗採を防止するため毎年、取り締まりを実施しています。

当日は、午前10時から午後2時まで秋田駒ヶ岳8合目へ通じる県道で、

仙北警察署3名、仙北市教育委員会2名、ボランティア3名、当署8名の合計16名で行いました。取り締まり台数は、上り車両36台、下り31台でした。幸いにして盗採者は一人もいませんでしたが、今後も引き続き、天然記念物「秋田駒ヶ岳の高山植物」を守っていくため保護・監守に努めていきます。

「庄内海岸クロマツ林探訪」の
開催について

庄内森林管理署

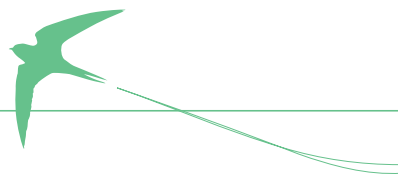


7月3日(日)、管内国有林の鶴岡市「湯野浜」および酒田市「万里の松原」において、当署が行っている海岸防災林造成事業やクロマツ林と密接な関係にある砂草地の重要性について認識してもらうことを目的に「庄内海岸クロマツ林探訪」を開催しました。

当日は明け方から雨が降り、開催が危ぶまれましたが、開催直前には雨も上がり雨具を使用することなく全行程を行うことができました。

「湯野浜」では、これまで治山工事において施工した砂丘造成工事の概要と砂草地の役割について現地説明を行い、参加者からは「植栽されている砂草は何か」、「工事を施工した

今年の夏は節電の夏。森林とのふれあいの中で、ひとときの涼をとるなど、この夏ならではの催しが多数開催されました。季節によって表情をかえる、森林の魅力をご紹介します。



万里の松原の説明をしている様子

また、万里の松原では、地域のボランティア団体等と連携しながら維持管理している松林の中を気持ち良く散策しながら、「万里の松原」を設定した経緯や目的などを説明しました。開催後のアンケート結果では「砂草地が手入れされていることを初めて知った」、「クロマツ林の成り立ちに



砂草地の説明をしている様子

際の留意点は？」などさまざまな質問が出ました。

ついでに知ることができ有意義であったなどの感想があり好評でした。今後このような活動を通して、一般の方にも庄内海岸林への理解が深まっ

ていくことを期待しています。

山形森林管理署
森林ふれあいガイド事業「可憐なコマクサを求めて」を実施して



七夏の7月7日(木)、晴天に恵まれた絶好のトレッキング日和のなか、「可憐なコマクサを求めて」と題して、今年度3回目の森林ふれあいガイドを一般応募者25人の参加により行いました。当日のコースは、ロープウェイで蔵王山麓駅から蔵王地蔵尊まで一気に登り、ワサ小屋跡→熊野岳(1841m)→ワサ小屋跡→いろは沼→ユートピアリフト乗り場まで歩き、蔵王山麓駅までロープウェイで下ると約6時間の行程でしたが、参加者の皆さん健脚ぞろいで、和気あいあいと楽しくコースを巡ることができました。

このコースの見所は「可憐なコマクサを求めて」のとおり、何といてもコマクサにあります。コマクサ平周辺では、コマクサの花が最盛期を迎えていて、清楚で可憐なその姿に参加者一同が魅せられていました。



お釜を背に咲くコマクサ

山形森林管理署では、年間5回の森林ふれあいガイドを行っています。今後、国有林の名所・見所を廻るトレッキングを企画し、多くの皆さんに森林浴を楽しんでいただきたいと思っています。

中通小学校との
環境美化の集いを実施
指導普及課



6月17日(金)、当局に隣接する秋田市立中通小学校との協働による「環境美化の集い」を実施しました。この集いは、学校緑化活動の環として花や土にふれてもらい、豊かな心を育てむことを目的に、木製のプランターに花を植えて展示するもので、中通小学校4年生児童を対象に平成14年度から毎年実施しており、今年で10

年目となりました。



当局職員と協働より植栽する生徒

当日はよい天気にも恵まれ、児童35名と教師3名、当局職員24名が参加し、職員から植え方の説明を受けた後、子供達はプランターに植栽を開始しました。先生や職員の手を借りながら丁寧に植え、スギの間伐材で出来た70個のプランターに、マリーゴールド、ペチュニア、日々草の花140本が咲きました。

その後、子供達は、みんなで力を合わせて学校内の階段や通学路となる局周辺の道路沿い等に運び、自分で植えた花がきれいに街を彩る様子を嬉しそうに眺めていました。

最後に代表児童が、「花を大切にすることは優しい気持ちを大切にすることだ」と学びました。今日植えた花を大事に大事に育てます。」と挨拶し、イベントを終了しました。



みどりの東北

このイベントは地域の方々も心待ちにしており、展示した色とりどりの花々は道行く人の目を楽しませています。

暑中の白神山地より

藤里森林センター



季節の移ろいは早いもので、白神山地では、つい先日までブナの新緑が輝いていましたが、今は真夏の強烈な日射しの下、深緑の森林に姿を変えています。

さて、当藤里森林センターにおいては、この間、二つのイベントを実施しましたので紹介します。

●白神森林講座

6月4日(土)にGネイチャーコミニケーション代表(日本山岳ガイド協会認定登山ガイド)の後藤千春氏を講師に迎え「春の白神山地をきれいに撮ろう」と題し、写真撮影を兼ねた自然観察会を開催しました。

はじめに、当センター研修棟において森林講座を開催し、野外撮影のポイント、より良い撮影アングルの取り方等についての講義を受け、いざ現地へ。

参加者18名の皆さんご自慢のカメラを携え、まずは太良峡での天然秋田スギや藤琴川の溪流を被写体にして、無心でシャッターを切ってい



太良峡にて

ました。

朝からの小雨が降りしきる中、残念ながら野外での昼食は取れず、バス内での昼食を済ませた後、岳岱自然観察教育林での撮影会に移りました。

午前中とは全く環境の違う、ブナ林内での撮影会に、参加者の皆さんは熱心に講師からのアドバイスを聞き、疑問点について積極的に質問しながら、林床の植物やモリアオガエルなどの被写体にカメラを向けていました。

帰路は、峨嵋の滝に立ち寄り、ここでも迫力ある滝の姿や、躍動する水



和気あいあいの雰囲気の中で
左端が後藤千春講師

の流れを写真におさめていました。

今回初めて外部講師による講座を実施した訳ですが、参加者の皆さんからは、「写真をはじめたばかりなので、大変参考になった」「とても親切に案内していただき楽しかった」などのうれしい声をいただき、充実した一日となりました。

●藤里駒ヶ岳登山

7月2日(土)、快晴の下、参加者19名の皆さんとともに路頂上を目指し、午前10時に黒石沢林道終点駐車場より登山を開始しました。歩き始めて10分ほどでニコウキスゲ

が今まさに見頃の田苗代湿原に到着。湿原を埋めんばかりの黄色と緑色のコントラストに、参加者の皆さんからは「うわー、きれい」との歓声が聞かれました。

田苗代湿原を越えると、いよいよ



幻想的な景色の中で(表紙)

登山開始です。

登山開始から約20分、道の傾斜がきつくなり、息を整えるため適宜休息を取りながら一人ひとり無理せずゆっくりと足を運びました。途中、幽霊茸と呼ばれるギンリョウソウの不思議な佇まいを見たり、マイズルソウの群落に足を止めて眺め、頂上手前ではゴゼンタチバナの見事な大群落に感銘の声をあげながら予定時刻より30分も早い12時に全員登頂に成功しました。(標高1158m)



藤駒頂上の爽風の中で

頂上からは小岳やニツ森などの1km級の頂を眺めることができ、爽やかな風を受けながら食べるお弁当は格別な味でした。

昼食もそこそこに皆さんは、柔軟運動を開始、「早く歩きましょう」と意欲満々。しつかり足腰を整え足取りも軽く下山を開始しました。



みどりの東北

登山時と同様に適宜休息を取りながら、無事出発点の黒石沢林道終点駐車場に到着。職員からの冷えた水のサービスに「おいしい」「生き返った」などの声をいただきました。参加後のお便りには「職員のみなさんの対応が素晴らしく、感動した」「安心して登山を楽しめた。ありがとう」など胸が熱くなるメッセージをいただき、今後も充実したイベントになるよう努めることを改めて認識した一日となりました。

今後のイベントを実施していくにあたり、参加者の皆さんを無事に案内することはもとより、更なる内容の充実を図ることを念頭に業務を進めてまいります。

自然観察会開催

津軽白神ふれあいセンター



津軽白神森林環境保全ふれあいセンターでは、開所した平成18年度から一般の方を対象に自然観察会を開催しています。平成23年度は年5回の自然観察会を計画しており、7月23日(土)には第3回の自然観察会を北八甲田で開催し秋田県からの参加者や県内各地から24名の参加がありました。

今回の自然観察会は、参加者の方々の体力に併せ、「毛無パラダイスライン」のコースと「八甲田ゴードライン」のコースに分かれ、それぞれが夏本番の八甲田連峰を楽しみました。登山道の廻りには樹水で有名な「アオモリトドマツ」や高山地帯に見られる「ハイマツ」の木々、綿のような白い球形の果穂が特徴な「ワタスゲ」やシロバナシャクナゲの別名もある白色の花冠を見せてくれる「ハクサンシャクナゲ」などが見られ参加者を歓迎しているようでした。「毛無パラダイスライン」を歩いた参加者からは「初めて歩いたが、結構大変で疲れました。でも、何よりも天気が良く景色が素晴らしかったし、爽やか風が心地よかったです。ひとりでは来ることが出来なかった

ので、参加して良かった」との感想がありました。当ふれあいセンターは今後も、自然に触れ、自然を楽しみ、



八甲田ロープウエー山頂にて

自然の素晴らしさを感じてもらえる様な自然観察会を開催していければと思っています。

朝日自然塾4 「釣りキチあつまれ！」

朝日庄内ふれあいセンター



朝日自然塾4「釣りキチあつまれ！」(朝日山地で森林とイワナを学ぼう)は7月9日(土)、山形市、寒河江市、天童市内等の小学生の親子を中心に28名の参加者で開催しました。

当日は、晴天には恵まれたものの、数日前の集中豪雨の影響等もあり、釣り場所は、予定していた溪流からイワナのいる池に変更しての実施となりました。

参加者の半数以上が初めての方であつたため、初めの数十分は夢中で竿を振り込んでみるものの、なかなかイワナを釣り上げることが出来ません。次第に竿の扱いに慣れ、講師から教わった魚信(あたり)と合わせ方が出来るようになります。あちこちから歓声があがり、嬉しそうに釣ったイワナと一緒に記念撮影も出来ました。

釣りは初めてという親子には、講師が何とか釣らせてあげたいと手を添えた熱心な指導の甲斐もあって、ほとんどの参加者はイワナを釣り上

げることができました。

イワナ釣りに続いて、大井沢地区を流れる寒河江川を静かに眺めながら、講師から溪流釣りの話を聞き、溪流でのイワナの生活(衣食住)や森林とイワナの深い関係についても教えていただきました。

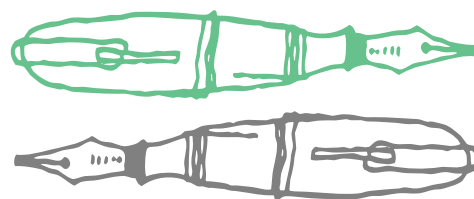
その後、大井沢セミナーハウスに移動して、昼食とともにスタッフがいねいに焼き上げた美味しいイワナの塩焼きに舌鼓を打ちました。

午後は、イワナの特徴・種類・おもしろい話や川でのルール・マナーなどについて座学を行いました。普段聞くことのできない講師の話は興味深いものであるとともに、私たちの身近にある川は朝日山地を源流とするものも多く、ブナなどの豊かな森林とつながっており、森林や川を保全するための活動の大切さを学んだ一日となりました。



イワナを釣ったよ!

先人から受け継いだものを 後世へどう継承していくか



森 林 官 か ら の 手 紙

米代東部森林管理署 上小阿仁支署 小沢田森林事務所

柳谷 秀喜

Hideki Yanagiya

私の勤務している小沢田森林事務所は、秋田県のほぼ中央、北秋田地区の南西に位置する上小阿仁村にあります。森林事務所は国道285線沿いの村役場や道の駅かみこあにのほど近くに 있습니다。上小阿仁村は南北に長い山間の村で、秋田市の太平山に源を発する小阿仁川が村の中央を北に流れ、五反沢川と仏社川等の支流と合流し、米代川へと流れていきます。上小阿仁村の総面積は25,682haですが、その9割以上が山林で占められています。昔から林業及び木材産業が重要な位置を占めていました。

また、山林の国有林率も73%と非常に高く、木材の供給や森林の利用等を通じて、国有林との関わりが深い地域です。上小阿仁村は藩政時代から「天然秋田杉の里」として広く知られており、「秋田杉」も阿仁鉾山の御用木として珍重されてきました。もう一つ有名なのが、コアニチドリです。大正8年に発見されたラン科の多年草の植物で、その名は、最初の発見地である上小阿仁村の小阿仁川に由来し、県立自然公園の太平山（標高1,171m）山頂付近に自生しています。花は極めて小さく、淡い紅紫色の部分と白色の部分があり、小さなチョウのような形状をしています。

さて、小沢田森林事務所の主な業務として、生産・造林請負、林道改良工事の監督業務、その他に林野巡視や各種調査、イベント等があります。管内には自然観察教育林や姫ヶ岳といった特異景観の山々があり、地元住民のみならず、県内外

から多くの人々が訪れます。

特に、小沢田管内には、林野庁「森の巨人たち100選」の一つに選ばれた樹齢250年の天然秋田杉「コブ杉」があり、多くの観光客が訪れ、イベントや教材等に活用されています。昨年6月には地元上小阿仁小学校3年生の児童10名が、総合的な学習の時間の一環で訪れました。コブ杉のある上大内沢自然観察教育林は720本もの天然秋田杉の巨木が郡立し、コブ杉はその中で一際奇妙な形をしており、古くから地域の御神木として崇められてきました。当日はあいにくの雨でしたが、子どもたちは初めて見る天然秋田スギについて、支署職員の説明を聞きながら熱心に学んでいました。また、上小阿仁村村民は森林・林業に対する関心が非常に高く、今年5月に上小阿仁村仏社村有林において全村植樹祭が開催され、村民や地元小学生及び業界関係者等、約100名が参加しました。参加した児童達に支署職員も指導をしながら一緒にサトウカエデの苗木100本を丁寧に植え付けました。

上小阿仁支署管内には今回紹介した天然秋田杉（コブ杉）やコアニチドリの他に、奥羽山脈西部森林生物遺伝資源保存林や森吉山クマゲラ特定動物生息地保護林等の学術上貴重な森林が多く存在しています。祖先や先人達から受け継がれたものを大切に、後世へどう継承していくか、適切な保全管理がこれからの国有林にとって重要な事だと感じています。



コアニチドリ



コブ杉



地元小学生のコブ杉観察

【我が署の名所⑤】

岩手南部森林管理署遠野支署
〒028-0515岩手県遠野市東館町7-39
tel.0198-62-2670 fax.0198-62-9628

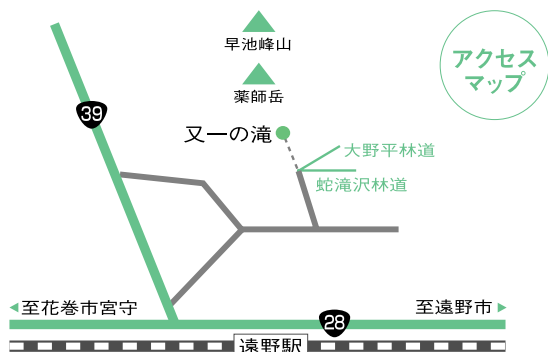
岩手県遠野市——「又一の滝とお不動さま」



又一の滝とお不動さま



又一の滝



アクセス
マップ

又一の滝とお不動さま

又一の滝は早池峰山登山道薬師岳コース入り

口より約1km(徒歩30分)の地点にあり落差約20m、幅約5mで登山道沿いにあります。その横にはお不動さまがあり早池峰山の登山者の休憩地点として、また登山者の安全を見守るお不動さまとして存在しています。

また、登山道入り口から続く国有林は、この「又一の滝とお不動さま」から先が早池峰山周辺森林生態系保護地域に指定され広大な広葉樹林が広がっています。

さらに、この「又一の滝とお不動さま」は遠野市が指定した遠野遺産(自然遺産)として認定され、遠野市の観光、教育等各種ガイドブックにも紹介されております。

*遠野遺産とは、平成19年からはじめた子供たちに伝えたい遠野市の「たからもの」を認定する制度で
①遠野市の魅力をあらわしているもので、
②認定後も市民の手で保護・活用されていくものとして認定する制度で
現在では100件以上を認定している

●東北森林管理局のホームページをご覧ください

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

